
月の下の願い事

蜉蝣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月の下の願い事

【Nコード】

N6886H

【作者名】

蟬疣

【あらすじ】

自分は大好きな貴方に『おかえり』を言うことも出来ない。だからせめて…大好きな人の幸せを願う、小さな○○の物語。

深夜0時、

また今日も窓の外に大きな真ん丸のモノを見る。

“月”

と言うそうだ。

今、あたしの横で眠る

あたしの1番大切な人がそう教えてくれた―。

『ほな、行ってくるな、
史葵。』

気が付くと、上から優しい声がした。

月を見ていたはずなのに…
どうやらあのまま眠ってしまったようだ。

優しい声の持ち主は、

あたしの頭にポンと手を置き、

優しく、

丁寧に撫でて

『行ってきます』を行ってから会社へ行く。

いつものやり取り。

少し低い声

あたしの大好きな人
“ 白羽悠汰 ”

悠汰の勤めてる会社は家の近くだけれど、帰ってくるのはいつも1時を過ぎる。だからこの時間、いつもあたしは独りぼっち…

悠汰が外に出ちゃ駄目って言うから外に散歩にも行けないし、

家の中をイロイロ物色すると凄く怒られる…。

(…暇だなあ………)

そう思っても何も出来ない。

昼間は夜と違って月も出てないから、空を見てもちつとも楽しくない…

いつもいつも

疲れた声で

『ただいま』って言う。

どうしてそんなに

へとへとになるまで頑張るの？

服だって、

もうボロボロじゃない。

1年前、捨てられてたあたしを抱き抱えてくれた貴方は、

綺麗な服を着て、

そんな疲れた声はしていなくて、

そんなに…

痩せてはいなかったじゃない……。。

P M 9 : 0 0

悠汰が帰って来るまで

あと約2時間。

今日もまた、

あの月が顔を出している。

真っ暗な闇の中に

一つの大きな希望の光。

けれど、

そんな月を前にしても

あたしの頭の中には、

常に悠汰が居る。

例えるなら、悠汰は月だ。

捨てられて、

生きる希望さえなかったあたし…

闇の中、たった一つの月を見ながら泣いていた…

小さな

汚
か
っ
た
あ
た
し

猫
…
…
…

汚
い

綺麗だった貴方

今は…

今の貴方は

昔のあたしみたい…

淋しくて

辛くて

全てから逃げたい

そう思ってた

あの頃のあたしの様な目をしてる。

でもあたしは

汚れてない…

傷ひとつない

きつと

悠汰を苦しめてるのは…

あ

た

し

だ
……

あたしのせいで悠汰は…

あたしが居るから

悠汰は苦しんでるんだね…

あたしは窓の縁に座って、瞳にしっかりと月を映した。

ねえお月様、

あたしは十分生きたよ？

幸せだった…

悠汰に拾われて

大切にされて…

嬉しかったなあ…

暖かったなあ…

生まれて良かった

って

初めて想えた…

けどね

悠汰が苦しむの

もお見たくないんだ…

だから…

あたしを

あなたの一部にして？

そこからで良いの

悠汰を見守っていちやダメかなあ…？

自然と

目から雫がこぼれ落ちた。

しばらく月を見ていると、

すぐそばを星が流れるのを見た。

まるでそれは

あたしの問い掛けへの応えのようで

あたしは

ありがとう

ありがとうと

朝、

何度も言った。

あたしは眠った。

それは覚めることのない永遠の眠り。

でも

あたしは此処に居る。

月という

悠汰

確かな存在になった。

昨日は言えなかったね、

“おかえり—”

俺は一匹の猫を飼っていた。

生活に余裕なんかなかったけど

嬉しかったんよ…

家に帰って

『ただいま』

って言つと

必ずミヤーと鳴く。

『おかえり』って言われてるみたいやった。

でも

それも終わりを告げた。

朝になったら

真冬の空気みたいに冷たくなってた。

初めは泣いた。

泣きじゃくって

生き返ってと

何度も願った。

そんな夜

ふと窓の外を見ると

綺麗な満月が浮かんでいた。

何故だか

涙が出た。

でもそれはさっきみたいな悲しい後悔の涙じゃなく…

『ありがとな…』

感謝の言葉を言いたくなるような

あの子を想う

綺麗な涙だった。

まるで、

浮かび上がる

満月のように……

E
N
D

（後書き）

ここまで読んでくださって本当にありがとうございます！なんだか微妙なかんじになってしまいました。が、これからがんばるのでよろしく願いします^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6886h/>

月の下の願い事

2011年1月21日02時41分発行